



血液疾患と輸血

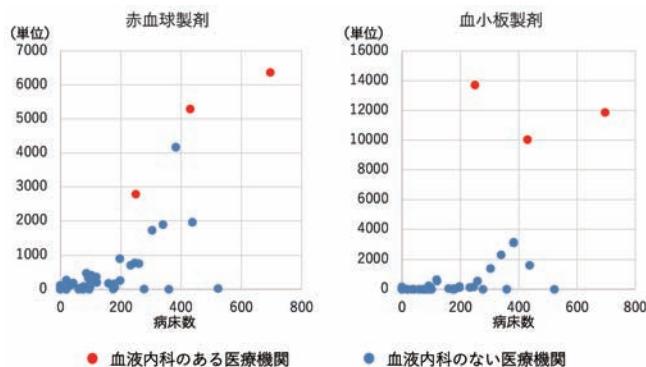
血液疾患に対する輸血療法は、血液疾患患者会などで「輸血に助けられた命」など献血に対する感謝の声がたくさん寄せられるほど治療に不可欠である。国立がん研究センターの統計（2019年）では、1年間にがんと診断される患者数は人口10万人あたり791.9例、大腸がんは123.3例、肺がんは100.3例に対して白血病は11.3例と少なく、血液疾患は少数派である。山陰地方の一つの血液内科を例に、今後の動態について考えてみた。

2018年に日本輸血・細胞治療学会が実施した血液製剤使用実態調査で輸血用血液製剤の供給実績のある4725施設では一般病院・診療所が全体の76.78%を占め、診療科は整形外科60.39%、消化器内科50.32%、消化器外科32.91%、血液内科18.48%、心臓血管外科14.94%、救急科17.76%であった。しかし、血液製剤の使用割合については、血液内科が赤血球製剤で21.98%、血小板製剤で63.8%を占めていた。

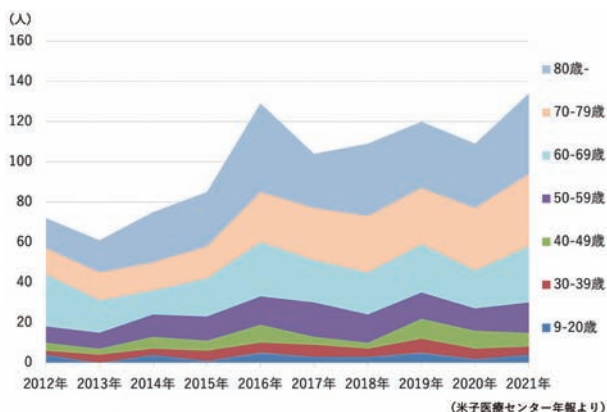
山陰地方でも血液内科は少数であり、鳥取県合同輸血療法委員会が2013年に行った輸血用血液製剤供給実績のある66施設に対する調査では、血液内科は3施設。しかし、赤血球、血小板製剤の輸血量は多く、中規模診療機関においても血液内科による多い輸血量がみられることから（図1）、山陰地方の輸血需要量も血液疾患患者数に左右される。

一方で山陰地方の人口減少は大きな問題となっており、人口減少により患者数または、献血ドナー数は減少することが考えられる。ところが、山陰地方の血液内科25床を有する病院を例にとると、血液疾患新患数は2012年から10年間、特に60歳以上患者数の増加傾向が見られる（図2）。山陰両県の人口推移は、14歳以下、15歳から65歳未満は著明に減少し、65歳以上の人口は横ばいであり、75歳以上は増加する（図3）。すなわち、献血人口が減少する一方で、高齢者人口の増加ために血液疾患患者数は増加する。その結果今後10年間輸血需要は減少しないことが予測される。

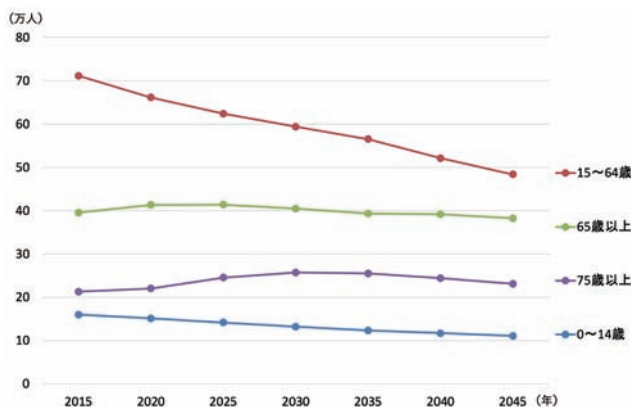
人口減少は患者数の減少につながらず、若年人口の減少による献血ドナーの減少がより大きな問題であり、今後の対策が必要である。



（日本輸血・細胞治療学会誌，Vol. 63. No. 1 63（1）：40—45，2017より）
図1. 鳥取県内医療施設病床数別輸血使用量



（米子医療センター年報より）
図2. 山陰地方の1血液内科における年齢別血液疾患患者数年次推移



（日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計、国立社会保障・人口問題研究所）より）
図3. 山陰地方（島根県・鳥取県）の年齢別人口推移

（島根県赤十字血液センター所長 但馬史人）

もっと知って!赤十字の活動 ～赤十字運動月間啓発パレードの開催～

高知県では毎年、5月の赤十字運動月間の一環として、広く県民の皆様に赤十字活動をPRし、活動への参加と支援を求めるため、「赤十字運動月間啓発パレード」を実施しています。

今年も日本赤十字社高知県支部、高知県赤十字血液センター、高知赤十字病院、赤十字奉仕団高知県支部、高知県青少年赤十字主催により4月22日に開催しました。

高知県庁での開会式に始まり、帯屋町商店街アーケードでのパレード、高知市中央公園での閉会式と約2時間の活動です。

当日は、当センター14名を含む、230名が参加し、会場は大変な賑わいを見せました。

参加者は、県内の赤十字施設職員のみならず、日頃より赤十字の活動にご支援いただいている奉仕団や青少年赤十字加盟校の皆様です。日赤救護服や赤十字ロゴ入りのポロシャツ・ビブス、日赤奉仕団のウィンドブレーカー等、各々が普段の活動で使用している服装に身を包み、赤、青、黄色と様々なカラーが目を引きました。会場を見渡すと、これほど多くの方々に支えられているのだという実感が改めて湧いてきます。

さて、高知市長らによる激励と、赤十字奉仕団高知県支部委員長による出発の号令で、いよいよパレード開始です。参加者は隊列を組み、パレード会場である帯屋町商店街アーケードを行進します。先導するのは土佐女子中学・高等学校の学生たちです。同校の吹奏楽部による迫力ある演奏とともに、参加者それぞれが横断幕やのぼりを掲げ行進し、盛大なパレードとなりました。また、パレード終了後には活動資金の街頭募金も行いました。通行人の中には、興味をもって立ち止まってくくださる方や温かい声をかけてくださる方もいっしょに、開催の意義を感じられました。

この活動を通して、普段なかなか顔を合わせることのない他施設の職員や赤十字奉仕団、青少年赤十字の皆様と交流し、赤十字の使命を再認識できたことはもちろん、高知県内で最も賑わうエリアでの大々的な啓発活動により、広く県民の皆様には赤十字の活動をPR出来ました。参加者の皆様にとっても、ますます赤十字活動協力への士気を高められたものと思います。

皆様に赤十字への理解や協力を求めるためには、まず赤十字の活動を知ってもらうことが大切です。これからも施設や団体の垣根を越え、啓発活動を行っていききたいと思います。

(高知県赤十字血液センター 総務課 門脇希)

